

地域医療連携室だより

令和 5 年 2 月冬 ・ 第 32 号

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室長 挨拶

平素より格別の御高配を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスが確認されてから 3 年が経過しました。未だ出口の見えない状況が続いておりますが、その間治療薬やワクチンの開発などいろいろな対症療法が可能となりました。10 月に第 7 波も収まり、今度こそはと思っていましたが、その思いとは裏腹に 11 月には増加に転じました。さらにそのまま行動制限のない年末年始に突入し、年明けには増加しています。特に今回は、全国的にもですが、当院においても多くの入院が 85 歳以上となっています。



室長 絞島 百代

また新型コロナウイルスの新たな派生型「XBB.1.5」がアメリカで急速に広まってきており、不安を感じます。一方で政府は今春 5 類移行に向けて検討指示されており、今後の動向について注視する必要があります。

当院は、昨年 6 月分娩の取り扱いを再開し、ようやくコロナ以前の診療体制となり、今後は一般病棟の病床拡大や 2 次救急の再開、令和 2 年 4 月に指定を受けた大阪府がん拠点病院としてがん診断から治療、緩和へと一連した診療が行える環境整備に取り組んでいきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。

P2 … 小児整形外科について

P3 … 手外科について

P4 … 新任医師 笠松 悠

感染症内科医長兼内科医長 紹介

第 36 回十三臨床談話会開催について

編集 〒532-0034 大阪市淀川区野中北 2-12-27

大阪市立十三市民病院 地域医療連携室

代表電話：06-6150-8000 直通電話：06-6150-8067



小児整形外科診療について

小児整形外科疾患は多岐にわたり、整形外科医だけでなく、時に小児科医や学校医が診療に携わることがあります。しかし、昨今の専門領域の細分化、少子化の影響によって、小児整形外科疾患を診療する機会が減り、所見が正常か異常かの判断がつかない事も少なくありませんが、当院では専門性が高い小児整形外科診療を行なっています。

・乳幼児健診、学校検診後の診療

当院では、発育性股関節形成不全（以下、DDH）を代表として、乳幼児の診察に超音波検査（以下、エコー）を用いています。X線による放射線被ばくの心配がなく、骨化が未熟な生後直ぐから診断でき、早期治療介入が可能です（図1）。

学校検診におきましては、運動器疾患の有病率が予想を上回ったことを受け、学校保健安全法が「脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態」に改正され、小児整形外科疾患に対して、より厳重な対応が求められるようになりました。

乳幼児健診で指摘される疾患（DDH、斜頸、O脚・X脚、歩容異常など）、就学児童（またはそれ以降）の変形や痛み、可動域が狭い、などに対する診療でお困りの際は、当院へご相談下さい。

図1：乳児股関節検診



日本小児整形外科学会が推奨している DDH の健診チェック項目：1.開排制限がある場合、または 2.大腿・鼠径皮膚溝の非対称、家族歴、女兒、骨盤位分娩の4項目中2項目以上、に該当する場合は二次検診（専門医による診察）が必要です。

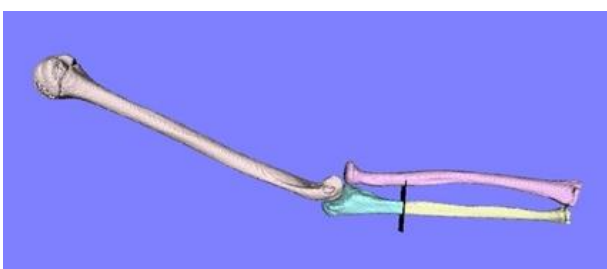
・小児外傷、四肢変形に対する診療

「X線で異常はないけど、腫れている、痛がっている」、といった状況で、正確に診断されないまま安易に経過観察を行うと、時に悲惨な合併症を生じることがあります。当院では、軟部組織や骨・軟骨の病変が描出できるエコー検査の標準走査法を確立しており、迅速な診断と治療が可能です（図2）。また、変形に対しては、コンピュータシミュレーション技術を用いた矯正骨切り術、骨延長術によって、正確な変形矯正が可能です（図3）。

図2：肘関節エコー



図3：コンピュータシミュレーション手術



先天異常、痙縮など、小児整形外科疾患に対して幅広く診療を行なっておりますので、何かありましたら一度当院へご相談下さい。

整形外科医長 新谷 康介



手外科について

令和3年4月より関節外科・脊椎外科に加え「手の外科」による診療を開始しております。多くの開業医の先生方にご協力いただきながら、ばね指や手根管症候群・橈骨遠位端骨折といった一般的な症例から、デュピトラン拘縮やリウマチ手による伸筋腱皮下断裂といった専門性の高い症例まで幅広く、治療にあたっています。



整形外科医長 窪田 穰

当院では神経を取り扱う手術において設置型顕微鏡を用いる事によってより安全で正確な手術を目指しています。具体例としましては肘部管症候群に対する尺骨神経皮下前方移行術に際して伴走血管を温存し、尺骨神経と一緒に前方移行することが可能となり、結果として術後の神経の状態をより良くすることが可能となります。また、手指の軟部腫瘍に対する手術の際に微細な神経・血管に干渉するような場合はこれらの剥離・温存が容易となります。

また、手の外科の開始により診療体制にも変化が見られています。今までは関節外科・脊椎外科が主流であったため待機手術が多く、外来手術はあまり行われていませんでしたが、手の外科の疾患の多くは外傷などにより早期の対応が必要な症例も多いため、局所麻酔や伝達麻酔にて比較的早期に手術を行うことができるようになりました。また、理学療法士の協力のもと通常の作業療法に加え、筋力・関節可動域・知覚などの評価やスプリントの作成なども行えるようになってきていますので、手の外科疾患でお困りの症例があればご紹介をお願いいたします。

手の外科が診る疾患

橈骨遠位端骨折、手指骨骨折、手根骨骨折、槌指、腱断裂、神経断裂、手根管症候群、肘部管症候群、ばね指、ドケルバン病、強剛母指、テニス肘、野球肘、母指CM関節症、ヘバーデン結節、ブシャール結節、三角複合靭帯損傷、橈骨神経麻痺、腱鞘炎、爪周囲炎 など



十三市民病院 整形外科 手の外科はみなさまの悩みに“手”を差し伸べる医療を心がけています

新任医師紹介

感染症内科医長兼内科医長

笠松 悠（かさまつ ゆう）

令和5年1月より大阪市立十三市民病院感染症内科医長兼内科医長として赴任いたしました『笠松 悠（かさまつゆう）』と申します。

平成17年に産業医科大学を卒業、愛仁会高槻病院で初期研修終了後に、松下記念病院を挟み大阪市立総合医療センターおよび十三市民病院で長年勤務した後に京都府立医科大学附属病院の勤務を経て、この度大阪市民病院機構に戻って参りました。

HIVや梅毒などの性感染症、ウイルスや抗酸菌・真菌や寄生虫などを含む感染症全般に精通しており、1月より感染症・コロナ後遺症外来を毎週月・金で開設していますので、お気軽にご紹介・ご相談頂ければと思います。

十三市民病院ならびに地域医療機関の皆様のお役に立てるよう尽力する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。



※感染症・コロナ後遺症外来については、医療機関からの紹介のみとなっており、また診療情報提供書がない場合は、選定療養費として診療費とは別に2,750円がかかりますので、ご注意ください。

専門分野	HIV感染症・性感染症・感染症全般
認定資格	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、日本感染症学会認定感染症専門医・指導医 日本エイズ学会エイズ治療認定医・指導医、日本臨床検査医学会臨床検査専門医 日本呼吸器学会認定呼吸器内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医

第36回 十三臨床談話会のご案内〔十三地域連携カンファレンス〕

日時	内容	演者
3月30日 (木) 19:00~	『心臓リハビリテーションとは 何をするのでしょうか』	医療法人渡辺医学会 桜橋渡辺病院 循環器内科医員 田中 千春 先生
	『STOP 動脈硬化 血管機能の維持を目指して』	大阪公立大学大学院医学研究科 循環器内科学教授 福田 大受 先生

大阪府医師会生涯教育講座

(1.0単位：74 高血圧、42 胸痛)を取得可能です。

開催方法：ハイブリッド開催（Zoomウェビナー）

ご参加を希望される先生は、右記の二次元コードより事前のお申込みをお願い致します。

